

氏 名	重安 良恵
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博 甲第 6952 号
学位授与の日付	2024 年 3 月 25 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)
学位論文題目	Quality of life and physical/psychosocial factors in children and adolescents with orthostatic intolerance (小児・思春期の起立性調節障害患者における QOL と心理社会的要因)

論文審査委員 教授 高木 学 教授 神田秀幸 准教授 高尾総司

学位論文内容の要旨

背景：起立性調節障害（orthostatic dysregulation: OD）は、小児・思春期に好発する頻度の高い疾患であり、身体症状のために不登校に至るなど日常生活に支障を来す。OD 児の QOL（quality of life）と心理社会的要因との関係について、検討した。

方法：2010 年 4 月から 2020 年 3 月の 10 年間に岡山大学病院小児心身医療科を受診し、新起立試験で OD と診断された 120 名のうち、初診時に QOL 評価を行った 95 名を対象とした。診療録から QOL 得点、年齢、性別、併存症、心理社会的因子などのデータを収集し、OD 児の QOL と心理社会的因子の関係を後方視的に検討した。

結果：小児 OD 患者の QOL 得点は、小学生（ 50.7 ± 13.5 vs 67.9 ± 13.4 , $p < 0.001$ ）、中学生（ 51.8 ± 14.6 vs 61.3 ± 12.6 , $p < 0.001$ ）ともに健常児より低かった。QOL 合計得点は、不登校 [$\beta = -3.2$, 95%信頼区間 (CI) = $-5.8 \sim -0.5$, $p = 0.022$] および学校との関係の悪さ [$\beta = -5.0$, 95%CI = $-9.8 \sim -0.4$, $p = 0.035$] と有意に関連していた。

結論：OD 児の QOL は、身体面だけでなく複数の領域で低下していた。身体的治療だけでなく、学校生活などの心理社会的アセスメントと対応が必要である。

論文審査結果の要旨

起立性調節障害（orthostatic dysregulation: OD）は、小児・思春期に好発する頻度の高い疾患であり、不登校など日常生活に支障を来す。OD 児の QOL（quality of life）と心理社会的要因との関係について検討した。OD 児の QOL は、身体面だけでなく学校生活に関わる複数の領域で低下しており、身体的治療だけでなく、学校との連携をとった心理社会的アセスメントの重要性をはじめて指摘した。審査員より、大学病院の単一施設研究であるため、OD の重症度が高い患者が多く含まれること、子供の QOL の時代による変化の存在、統計処理の繰り返しなどの限界点の指摘があった。

本研究は、医師、保護者、学校が OD に対する疾患理解を深め、アセスメントの必要性を理解する根拠となる重要な知見を得た価値ある業績と認める。よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。